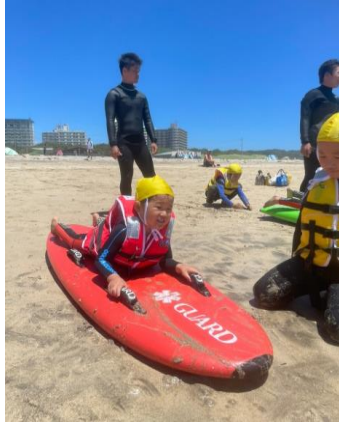


2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年 6月 26 日	9:30 ~ 12:30	会場	御宿中央海岸	
主催クラブ	御宿ライフセービングクラブ				
対象/参加人数	町内在住の3~6歳児/9名				
指導者	林 昌広(JLAサーフィンストラクター)・福島数基(JLAベーシック)・松原清尚(JLAベーシック)・三上拓琉(JLAベーシック)				
研修生の受入れ状況	特になし				
JLAのねらい 達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。				
	十分達成した 達成した 達成していない				
クラブのねらい 達成度	親子参加型のジュニア教室を実施し、クラブの活動を身近に感じてもらう。				
	十分達成した 達成した 達成していない				
使用機材・教具					
実際に行った タイムテーブル	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ	指導指針 参考ページ	クラブの 創意
10	【オリエンテーション】 ○指導員自己紹介 ○参加者自己紹介 ○保護者紹介 一緒に体験するメンバーの顔合わせ				地域の特性を紹介
20	休憩(水分補給)				
30					
40	ジュニアテキストブックによる学習				
50					
60					
70	ビーチクリーン&ビーチコーミング (環境問題に関する意識づけ)				
80	休憩(水分補給&入水準備)				
90					
100	救命胴衣(PFD)着用方法の説明				
110	救命胴衣(PFD)着用体験とサバイバルスイミングの実施				
120	ハドルポジションと救助要請				
130					
140	休憩				
150	ニッパードによる波乗り体験 (親子参加型)				
160					
170					
180	まとめ 参加者より感想を述べ、全体でシェア				

項目	楽しさ	人との関わりあい	命の大切さ
要素ごとの達成度			
活動内容ごとの振り返り	<p>夏季海水浴シーズン前での実施となり、海岸に多くのサーフスポーツ愛好者がいた。そんな中で、安全に配慮しながら実施することが出来、参加者は安全に海を楽しむことが出来ていた。</p> <p>海にはいるプログラムもさることながら、海岸でのビーチクリーンやビーチコーミングに対して子供たちの興味関心が高く、プログラム終了後に、自主的にビーチクリーンを行う姿が見られた。</p> <p>居住地域ということもあり、環境に対する配慮が自然と高くなっていると感じた。</p>	<p>親子参加型で低年齢を対象としたこともあり、受講者通しのつながりは強くなった。全員が地元九十社であったことも大きく、コミュニケーションはとりやすかった。</p> <p>子どもたちもすぐに打ち解けて、一緒に楽しく遊ぶ姿が印象的であった。</p> <p>また、サーフスポーツ愛好者からも声を掛けられることがあり、新たなコミュニケーションの輪が広がったことが印象的であった。</p>	<p>参加者が低年齢を対象としたため、リアリティーある表現を避けたため、命の大切さの追及には課題があると感じている。</p> <p>あまりシリアスな表現を使うと伝わらないこともあり、セルフレスキューの表現は難しかった。しかし、海洋生物に対するごみ問題等を話すと、子供たちは身近に感じたようで、環境に対する意識を高く持ったように感じた。</p>
改善計画と今後の展望	<p>海水浴シーズン前の実施とし、複数回出来ればいいのではないかと検討している。</p> <p>ビーチコーミングが好評だったことから、水の中で浮遊する物についても取上、子供たちの興味関心を引き出し、環境保全への意識を引き出していきたい。</p> <p>海洋プログラムの充実を図るため、安全管理を徹底していきたい。</p>	<p>親子参加型での開催はいい事例だと感じた。今後も親子参加型の体験教室の開催を検討していきたい。</p> <p>また年齢層を上げての実施も検討していきたいと思う。ジュニアクラブ育成につながるような体験教室の実施を検討していきたい。</p>	<p>低年齢の子どもたちへの対応方法を検討していきたい。また、保護者を対象とした展開も検討の余地はあると考える。</p> <p>今後は、幅広い年齢層に対して命の大切さを伝えられるような幅を持たせた指導法を模索していきたい。</p>

活動写真・集合写真



2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年 6月 19日 10:00~12:00	会場	材木座海岸		
主催クラブ	鎌倉ライフガード				
対象/参加人数	小学1~6年生の男女67名				
指導者	多胡誠（サーフライフセービングインストラクター）他クラブ員8名				
研修生の受入れ状況	なし				
JLAのねらい 達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。				
	達成した				
クラブのねらい 達成度	海の環境を楽しみながら、安全に遊ぶ方法を学ぶ				
	達成した				
使用機材・教具					
実際にやった タイムテーブル	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ	指導指針 参考ページ	クラブ の 創意
10	【集合】挨拶、スタッフ紹介口				
20	【テキストブック】 冊子の内容に沿って、海の知識・ 海で安全に遊ぶための方法をインプットする				
30	ランニング、体操 学年別グループワークにわかれる				
40	ビーチプログラム、各グループで砂浜で体を動かす メニュー				
50	鬼ごっこ、ランニングドリル等 休憩				
60	3グループに分かれる 【ライフジャケットについて】				
70	着用目的・注意点の確認 実際に自分自身での着用と、仲間同士で正しく着れているかチェックを行う				
80					
90	【ニッパーボード】 パドリングの基礎～レベルに合わせて行う				
100	【浅瀬での体の動かし方】 ウェーディング、ドルフィンダイブを習得し、レベルに合わせて行う				
110					
120	【振り返り】ライフジャケットの着用の重要性と注意点、海で安全に遊ぶための方法の確認 挨拶 解散 写真撮影				
130					
140					
150					
160					

項目	楽しさ	人との関わりあい	命の大切さ
要素ごとの達成度	(5) 4 3 2 1 十分 もうすこし	5 (4) 3 2 1 十分 もうすこし	5 4 (3) 2 1 十分 もうすこし
活動内容ごとの振り返り	<p>最初のテキスト伝達は浜に座った状態で、全体に対して行なった。</p> <p>全体でウォーミングアップを行なった後、体操までは全体で行い、その後2学年ごとのグループに分かれた。</p> <p>【ライフジャケットについて】 今回のメイン内容であるライフジャケットの説明、体験については各学年に合わせてしっかりと伝達できた。 1, 2年 正しい着用～浮いてみる 3, 4年 正しい着用～さまざまな浮き方～ライフジャケットがある時とない時の違い 5, 6年 3, 4年レベルの項目にプラスで、水の中での装着</p> <p>【ニッパーボード】 1, 2年 初めての子が多いので、足の立つ程度の浅瀬で乗ってみる、パドリングの形の確認 3, 4年 波に対して真っ直ぐに漕いで沖へ行き、対象物を回って帰ってくる。レベルに合わせて波にタイミングを合わせる 5, 6年 より早く浅瀬を移動し、素早くボードに乗り込む、スピードをつけてパドリングを行いブイを周り、波のタイミングを見ながら砂浜まで戻る</p> <p>【浅瀬での体の動かし方】 1, 2年 膝の深さで鬼ごっこなど楽しみながら、動き方を学ぶ、波の下を潜る 3, 4年 ウェーディングからドルフィンの一連の流れを習得する 5, 6年 スピードをつけて沖に行けるようにタイミングを学ぶ、スイムも入れる</p>		
改善計画と今後の展望	<p>テキストを使った伝達は、やはり海での開催より室内の方がしっかり伝わるのではないかと感じている。次回このプログラムを行う際には検討したい。ライフジャケット着用については各学年の習得到達目標の設定が必要と感じた。</p>		

活動写真・集合写真



2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年7月18日 /8月12日 10:00 ~12:00	会場	静波海水浴場					
主催クラブ	静波ライフセービングクラブ							
対象/参加人数	7/18:未就学児2名、小学生8名、8/12:未就学児3名、小学生7名/合計 20名							
指導者	石原 進介、石原 早織、スタッフ：末丸 太一							
研修生の受入れ状況	無							
J L Aのねらい 達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。							
	十分達成した 達成した 達成していない							
クラブのねらい 達成度	水辺の安全教育を通して、水辺の楽しさを知ると共に、自然、人との関わり、命の大切さを学ぶ。							
	十分達成した 達成した 達成していない							
使用機材・教具	ライフジャケット、ニッパーボード、リーシュコード、レスキューチューブ、ペグ							
実際に行ったタイムテーブル	活動内容				楽しさ	人との関わり あい	いのちの 大切さ	クラブの 創意
10	【オリエンテーション】 ○自己紹介と実施内容の確認 ○日焼け止めの大切さを知る ○すごろくりレー				○	○		○
20	【防災教育】 ○地震が起きたら、どんな行動、どこに逃げるのが安全かを知る。 ○津波フラッグについて知る。					○	○	○
30	【休憩】							
40	【ライフジャケットの着用】 ○救命胴衣の正しい使い方を知り、自分の身は自分で守ることを理解する				○	○	○	
50	○ウェーディングをしながら海に入り、浮力を体験する ○ウェーディングリレー							
60	【休憩】							
70	【ニッパーボード】 ○風や波、流れの様子を知ること				○	○	○	
80	○波の力を利用し、波乗りができることを知る							
90	【ボディーサーフィン】 ○風や波、流れの様子を知ること				○	○	○	
100	○波の力を利用し、波乗りができることを知る							
110	【休憩】							
120	【振り返り】 ○海はその日の天候等によって、風や波、流れの様子が変わるため、ライフセーバーがいる海で大人と一緒に遊ぶことを抑える							
130								
140								
150								
160								

項目	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ
要素ごとの達成度	5 (4) 3 2 1 十分 もうすこし	5 (4) 3 2 1 十分 もうすこし	5 (4) 3 2 1 十分 もうすこし
活動内容ごとの振り返り	【オリエンテーション】 はじめに、プログラムの意図、e-Lifesavingの紹介、日焼け止め講座を行うことで、保護者にも伝えることができた。		
	【防災教育】 津波フラッグを周知するために、避難訓練の中に組み込んだ。また、実際に海水浴場から近くの避難場所まで足を運び、避難経路、避難に要する時間を確認する機会とした。		
	【ライフジャケットの着用】 ライフジャケットは知っているが、着るメリットを知らない子もいたため、再確認をした。また、「たて、よこ、またしたガッチャン!」を合言葉に自分に合ったサイズを着用すること、津波避難時は、ライフジャケットもしくは、浮くものを持って避難することを確認した。		
	【ボディサーフィン】 ニッパードは楽しさの中にも危険があること、まずは、自分で自分の身を守れることが重要であることを再度、確認することができた。また、当日の遊泳者の状況を観察し、風を強いときに起きそうなリスクを知る機会とした。		
	【ニッパード】 まずは、自分で自分の身を守れることが重要であることを再度、確認することができた。また、当日の遊泳者の状況を観察し、風を強いときに起きそうなリスクを知る機会とした。		
改善計画と今後の展望	コロナ禍というこおもあり、告知を口コミとSNSのみに限定した。次回以降は、チラシを作成するなど、検討をしたい。		

活動写真・集合写真



活動写真・集合写真



活動写真・集合写真

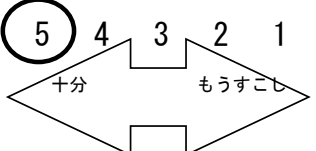
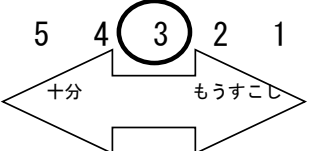
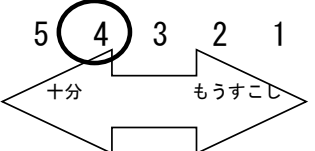


活動写真・集合写真



2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年 8月 27日 10:00 ~ 15:00	会場	福井県大飯郡高浜町 城山海水浴場		
主催クラブ	総合型クラブ ハイビーチ				
対象/参加人数	小中学生および保護者 48名 (12名×4コマ)				
指導者	細田直彦、奥田巖、隈本宙希				
研修生の受入れ状況	なし				
JLAのねらい達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。				
	十分達成した 達成した 達成していない				
クラブのねらい達成度	地元の海に入りながら、体を動かすことの楽しさ、命の大切さを感じ取る				
	十分達成した 達成した 達成していない				
使用機材・教具	ニッパーボード、ジュニアライフセービング教本、ラッシュガード				
実際にを行ったタイムテーブル	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ	指導指針 参考ページ	クラブの 創意
10	自己紹介/アイスブレイキング				
20		教材での座学(ライフセービング、リップカレント、e-lifesavingの紹介)		p38	
30		準備運動/レスキューチューブ渡り			
40		ニッパーボード		p42	
50		振り返り・まとめ			
60					
70					
80					
90					
100					
110					
120					
130					
140					
150					
160					
170					
180					

項目	楽しさ	人との関わりあい	命の大切さ
要素ごとの達成度			
活動内容ごとの振り返り	<p>1時間 1コマで合計 4コマの実施だったため、楽しさメインで伝達した。楽しさは十分に伝えられたと考える。</p> <p>学生も積極的に楽しみながら実施できた。</p>	<p>1時間 1コマで合計 4コマの実施だったため、クラスのメンバー間の関わり合いはあまりできなかった。</p> <p>コロナの影響もあり。ライフセーバーと参加者の間では円滑にかかわることができた。</p>	<p>教本の中で触れたこと、また自分の命を守ることの重要性を伝えた。</p>
改善計画と今後の展望	<p>毎年開催されるのであれば海の楽しさを全面に出したい</p>		

活動写真・集合写真



活動写真・集合写真



広報関連書類



中学・高校生
大人のみも
大歓迎です！

定員50名 少雨決行
8月27日 土

場所：城山海水浴場
時間：10時～15時
参加費用：1000円/人 ※保険料込み
参加費用は当日ご持参ください

※未就学児は参加できません。



車でお越しの際は近隣の駐車場をご利用ください。



申込方法
8/6より受付開始



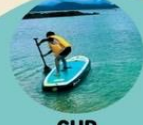
<https://www.takahama-hb.com/event>

↑QRコードもしくは
ホームページから
お申し込みください。

実施種目



ビーチサッカー



SUP
スタンドアップパドル



釣り



シーカヤック



ライフセービング
体験

各種目
60分/回
定員10名/回

当日の タイムスケジュール

- 9:20 城山海水浴場 受付開始 (種目振り分け/集金)
- 10:00 午前の部 ①
- 11:00 午前の部 ②
- 12:00 昼食 (各自ご準備ください)
- 13:00 午後の部 ③
- 14:00 午後の部 ④
- 15:00 解散

問い合わせ先
総合型クラブ HIGH-BEACH(ハイビーチ)
高浜町三明1-19 高浜まちなか交流館内
電話：0770-72-3318
受付時間：平日10時～17時 詳細はコチラ▶



持ち物
*着替え *水分
*タオル *お忘れなく！
*昼食

注意事項

- ★当教室は、各種目1回のみ体験とし、合計4種目を体験する一日参加型の教室です。途中参加、途中退出でのお申込みはご遠慮ください。
- ★小学校低学年の参加は保護者同伴をお願いします。同伴される方も、お申込みが必要となります。
- ★種目は当日受付順のため、時間等ご希望に添えない場合もあります。あらかじめご了承ください。

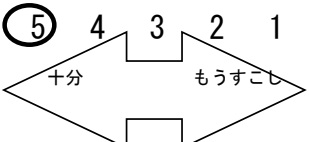
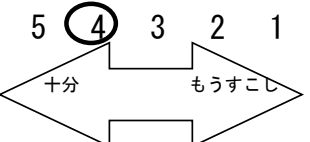
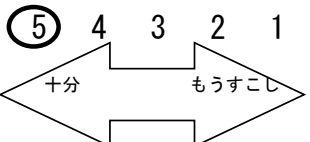


主催 高浜町教育委員会



2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年	7月19日、26日	9:30 ~ 15:00	会場	高浜小学校、和田小学校、 内浦小学校、青郷小学校
主催クラブ	若狭和田ライフセービングクラブ				
対象/参加人数	小学校5、6年生（4小学校 合計84名）				
指導者	細田直彦、奥田巖、隈本宙希				
研修生の 受入れ状況	なし				
JLAのねらい 達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを 実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。				
	十分達成した 達成した 達成していない				
クラブのねらい 達成度	座学では離岸流の特徴を学ぶこと、プール実習ではPFDの装着と着衣したままの浮き方を学ぶことで 命の大切さを学ぶ				
	十分達成した 達成した 達成していない				
使用機材・教具	PFD, e-learning, Jrライフセービング教本				
実際に行った タイムテーブル	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ	指導指針 参考ページ	クラブの 創意
10		自己紹介			
20			e-learning 動画視聴		
30			e-learning クイズ		
40			PFDの装着方法		
50		休憩時間・プールへ移動			
60	PFD装着して浮く				
70			着衣のまま泳ぐ、浮く		
80		ペットボトルを用いたレスキュー			
90					
100					
110					
120					
130					
140					
150					
160					
170					
180					

項目	楽しさ	人との関わりあい	命の大切さ
要素ごとの達成度			
活動内容ごとの振り返り	<p>e-learningの動画やクイズを楽しく実施できた</p> <p>ペットボトルの救助は楽しみながらも真剣に実施できた</p>	<p>コロナ禍でもあり積極的に指導ができない状況だった。</p> <p>プールでも浮けない児童がいたものの、積極的に近くで指導はできなかった。</p>	<p>e-learningの動画は生徒たちも集中していた。</p> <p>PFDの装着方法や、ペットボトルでの救助は熱心に実施していた。</p>
改善計画と今後の展望	<p>時間が確保できればもう少し楽しさを全面に出して実施したい</p>		

活動写真・集合写真

7/19(火)AM 高浜小学校

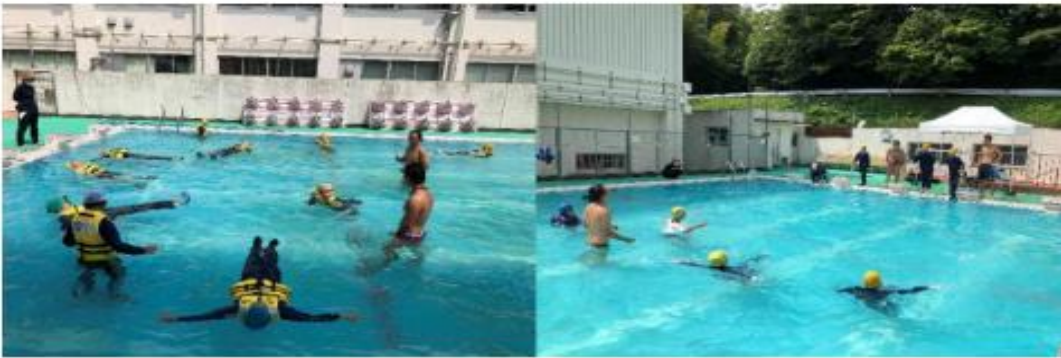


7/19(火)PM 和田小学校



活動写真・集合写真

7/26(火)AM 内浦小学校



7/26(火)PM 青郷小学校



2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年 11月 19日 13:00～ 15:00	会場	タピックタラソセンター、カンナビーチ				
主催クラブ	沖縄ライフセービング協会						
対象/参加人数	小学校1～6年生（未就学児については保護者同伴で一部体験のみ）／定員30名、参加17名						
指導者	冨師里圭、本釜綾、金子真幸、福里猛、渡慶次裕子、柴崎亜矢佳、木島悠太郎						
研修生の受入れ状況	なし						
JLAのねらい達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。						
	十分達成した 達成した <input type="radio"/> 達成していない						
クラブのねらい達成度	すべての子どもがアクセスできる海洋教育プログラムとし、水辺活動を楽しむことを第一に、多様な遊びにチャレンジする中から、自然や人との関わり合い、水中や浜辺での身のこなしを学び、水辺で自分の身を守るようになる。 海浜に集う人たちに対して思いやりを持ち、沖縄の豊かな海洋文化を支える人間形成（ウォーターヒューマン）を目指す。						
	十分達成した 達成した <input type="radio"/> 達成していない						
使用機材・教具	ニッパーボード、ライフジャケット、ビーチかるた（雨機材）、ラッシュガード、ジュニアテキスト、クリアファイル、バナー、パンフレット、レスキューチューブ、フロート						
実際に行ったタイムテーブル	活動内容			楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ	クラブの創意
	受付、申込書、同意書の確認、更衣室案内、テラスにて順次集合						
10	オープニング、自己紹介			○	○		
20	■ビーチレク						
30	ビーチクリーン・ビーチコーミング・ビーチフラッグス・集合写真 アイスブレイクと環境学習、ライフセービングスポーツ体験			○	○		
40							
50	水分補給、砂流し、移動						
60							
70							
80	■プール活動（2ブースの交代制）						
90	1、PFD体験（PFDの説明、着用体験、プール流水部にて流される体験、落水体験） 2、ニッパーボード体験（機材の説明、レーシング艇とノーマル艇を交互に体験）			○	○	○	
100							
110							
120	エンディング（まとめ）			○	○	○	
130							
140	シャワー及び着替え、順次解散						
150							
160							
170							
180							

項目	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ
要素ごとの達成度	5 4 3 2 1 十分 4 3 2 1 もうすこし	5 4 3 2 1 十分 3 2 1 もうすこし	5 4 3 2 1 十分 3 2 1 もうすこし
活動内容ごとの振り返り	自己紹介では全員が親しみを持ってよう手をつなぎ合って名前と今日の意気込みを共有した。	自己紹介で全員が同じ空間や時間を共有することの意識づけのため、手を繋ぎ輪になって挨拶を行った。	ビーチクリーンが自分自身や友達の安全に繋がっていることや、ビーチコーミングから環境問題について注目し、他の生き物との繋がりについて伝えた。
	活動場所のビーチクリーンを行い、見つけたこと自体を認め合う声掛けをおこなった。見つけてきたものからクイズをし、環境問題や、地域の海との関わり合いに注目したビーチコーミングにつなげた。	ビーチクリーンが今日一緒に遊ぶ友達の安全につながることを伝えた。貝などから沖縄県の食と海の環境について解説した。	
	ライフセービングスポーツ体験とし、ビーチフラッグスを実施した。	ビーチフラッグスでは、お互いに競い合う中で切磋琢磨し遊ぶことを重視した。	
	ニッパーボード体験を実施した。		
改善計画と今後の展望	<p>ジュニア教室については、まず楽しむことが子供たちの意欲につながり、それにより継続されると考えられることから、今後も子どもたちが楽しく積極的に取り組めるプログラム展開を継続していきたい。なぜ継続することが重要かということ、人との関わり合いや、命の大切さについて考えるといったことに代表される、ライフセービング教育の狙いを達成するためである。海という自らの力では太刀打ちできない大きなものと向き合うことは、楽しむためにも助け合い、海の前では自分本位ではならぬことを学ぶ。周辺の状況を判断し、その時々の変化に対応することがライフセーバーの能力の特徴であり重要な部分である。継続的なプログラムにより、楽しむことと、その時々判断して変化することや、自分自身を磨くこと（知識、技術を身につけ、体力をつける）を体験的に学ぶことになる。環境にあわせて、自分自身や遊ぶ環境、実施内容などをチェンジする力は、変化の激しい現代社会をまさに生き抜く力に繋がると信じている。今回の単発実施では、人との関わり合いや、命の大切さに相当する部分が非常に薄くなってしまったが、次年度は通年を通したプログラムとし、本来の狙いにまで届く事業へと発展させていきたいと思う。その中で、海に入れない日にはかかるたやe-Lifesavingを活用したい。ただし、津波についての知識など、学習要素をもう少しオープニングなど各所に散りばめることはできると考えている。これらについては指導員の研修として、リーダー講習を中心に、それぞれがスキルアップできる組織づくりを目指す。</p>		

活動写真・集合写真



活動写真・集合写真





おきなわ
ジュニア
ライフセービング教室
2022

こんなことするよ!
ビーチレクリエーション
温水プールにて
ニッパーボード体験
ライフジャケット体験
などなど

 **2022年11月19日(土)**
午後12時半～午後3時半
プログラムの進行によっては、
時間が前後することがあります。

 **タピックタラソセンター宜野座**

 **参加費 無料**

 **対象 小学生**
(保護者の方の見学可)

持ち物
・ 水筒
・ 海に入れる格好
・ ゴーグル
・ バスタオル

 ←INSTAGRAM
お申し込みはコチラ→ 

 **主催 沖縄県ライフセービング協会**

広報関連書類

各位

令和 4年10月 吉日

一般社団法人 沖縄ライフセービング協会
代表理事 首野 太志

「沖縄県ライフセービング協会主催ジュニアライフセービング教室」開催のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、当団体の活動につきまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当団体は、公益財団法人日本ライフセービング協会の沖縄県代表機関として、水辺の事故0（ゼロ）を目標に、ライフセーバーの育成や、水辺の事故防止に向けた安全教育、啓蒙、普及活動をしております。

この度「沖縄県協会主催ジュニアライフセービング教室」について、下記のとおり実施する旨、ご案内いたします。

海に囲まれた沖縄県では、毎年多くの水辺の悲しい事故が報告されております。2022年度1月～6月期においては、過去10年で最多の水難事故が発生しており、6割を超える事故が県民によるものとなっております。

新学期が始まり、登下校や放課後など、子どもたちだけで近くの水辺に遊びに出かけやすい時間帯が出てきます。夏休みの楽しい思い出が残る今、子どもたちの興味関心があるうちに、水辺の安全について学習する機会をご活用いただければいかがでしょうか。児童、生徒、保護者の皆様への周知にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

敬具

記

- 1、開催場所：タビックタラソセンター宜野座（プールプログラム）、カンナビーチ（ビーチレク）
- 2、日時：2022年11月19日土曜日 13：00～15：00（受付12：30～）
- 3、対象：小学生
- 4、内容：ライフジャケット体験、ニッパーボード体験、海の安全クイズなど（天候などにより変更になることがあります）
- 5、参加料：無料（参加料に含まれるもの：施設利用料、駐車場利用料、シャワー等利用料、プログラム参加料、保険料）
- 6、持ち物：水着、タオル、水泳キャップ、ゴーグル、飲み物、参加申込書、同意書

以上

2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年8月6日 10:00~12:00 2022年8月13日 10:00~12:00	会場	厚田海浜プール		
主催クラブ	札幌ライフセービングクラブ				
対象/参加人数	小学校 1~6年生 / 16人 (6日/7人 13日/9人)				
指導者	上野哲矢、国見将之、渡邊泰羅				
研修生の受入れ状況					
JLAのねらい 達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わり合いを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。				
	<input checked="" type="radio"/> 十分達成した <input type="radio"/> 達成した <input type="radio"/> 達成していない				
クラブのねらい 達成度	自然（砂浜・波打ち際・海中）の中で、人（参加者・保護者・指導員）と関わり合いながら心を開放し、お互いを認め合い、命の大切さを学ぶ。				
	<input checked="" type="radio"/> 十分達成した <input type="radio"/> 達成した <input type="radio"/> 達成していない				
使用機材・教具	ニッパーボード×5 ライフジャケット×15 ラッシュガード20 ジュニアキャップ 20				
実際に行ったタイムテーブル	活動内容	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ	クラブの創意
10	【あいさつ】10分 ○自己紹介を通して、お互いを知り、お互いを認める。（パディーの確認）		○	○	
20	【避難訓練】10分 ○津波フラッグを紹介し、海で津波フラッグを見かけたら、直ぐに避難すること、また、避難場所を事前に確認することを理解する。実際に、避難経路を見て確認する 【ビーチクリーン】10分 ○砂の感触を味わうとともにこれから教室を行うにあたって使用する範囲のビーチクリーンを行う。 ○ゴミを拾い自然に感謝する。ゴミ拾いが経路禁止につながることを学ぶ。		○	○	○
30	○砂の感触を味わうとともにこれから教室を行うにあたって使用する範囲のビーチクリーンを行う。 ○ゴミを拾い自然に感謝する。ゴミ拾いが経路禁止につながることを学ぶ。	○	○		
40	【ビーチフラッグス】15分 ○仲間と触れ合う中で、体を動かし、心を開く。 ○準備運動としての体ほぐしをする。	○	○		
50					
60	【シグナルスイム・セルフレスキュー・サヴァイバル】25分 ○シグナルサインを学び、息を合わせて動くことにより、仲間との協力の大切さを学ぶ。				
70	○ライフジャケットの着用の仕方を確認し、自分で着用できるようにする。（パディーで交互に着用する） ○泳ぐことよりも浮くことの大切さを知る。	○	○		○
80	○水の中に入ることなく助ける方法があることを学んでもらう				
90					
100	【ニッパーボード】30分 ○ニッパーボードについて知ってもらい、正しい使い方を学ぶ。 ○海の上を進む気持ちよさを体験してもらおう。	○	○	○	○
110					
120	【まとめの時間】10分 ○活動を振り返る中で、お互いに感謝、保護者に感謝、海に感謝、指導員に感謝、全てに感謝する。				
130					
140					
150					
160					
170					
180					

活動写真・集合写真



活動写真・集合写真



広報関連書類

札幌ライフセービングクラブ主催

海であそぼう！

ジュニア ライフセービング 教室

参加費無料！

8.6.SAT
8.13.SAT

場所：厚田海浜プール
時間：10時~12時
対象学年：小学3~5年生



学ぼう！
地震が起きた時の
行動について



着てみよう！
ライフジャケットの
正しい使用方法



海を進もう！
レスキューボードで
マリンスポーツ体験

◎各日先着20名とさせていただきますので、ご了承ください。
◎当日は海に入ることができる格好でお集まりください。
◎保護者の方も同伴いただきますようお願い致します。
◎参加費は無料ですが、海水浴場の駐車料金は別途発生します。
◎新型コロナウイルスの感染状況により中止となる場合があります。

協賛



申込みはこちら！

問い合わせ先
Mail:sapporo.lifesaving@gmail.com
Tel: (011) 822-9922
担当：渡邊 泰羅 (わたなべたいら)

2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年7月18・24日 10:00～12:00	会場	新宮海岸				
主催クラブ	特定非営利活動法人 新宮ライフセービングクラブ						
対象/参加人数	9名						
指導者	佐藤雄太 他5名						
研修生の受入れ状況	2名						
JLAのねらい 達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。						
	<input checked="" type="radio"/> 十分達成した <input type="radio"/> 達成した <input type="radio"/> 達成していない						
クラブのねらい 達成度	地域の子どもたちが 海で 安全に楽しく遊ぶことができるよう、海遊びの基本である「泳ぎ」を習得することを目的としたプログラム						
	<input checked="" type="radio"/> 十分達成した <input type="radio"/> 達成した <input type="radio"/> 達成していない						
使用機材・教具	ニッパーボード、Rボード、Rチューブ、PFD、ビート板、フラフープ						
実際に行ったタイムテーブル	活動内容			楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ	クラブの創意
10	開会式 & W-up	水泳教室概要説明、W-Up		○		○	
20	アイスブレーキング	ビーチレクリエーション			○		
30							
40	水慣れ&5水のチェック	海を楽しむために必要な「危険」について知る 危険を察知するための方法を知る 泳力基準スイム①～④の実施とチェック		○		○	○
50	小休憩、水分補給・健康チェック	点呼、健康チェック					
60	レッスン	泳力基準に則り、スイム①～⑦・オーシャン①②の レッスン		○		○	○
70							
80	小休憩、水分補給・健康チェック	点呼、健康チェック					
90	レクリエーション	ニッパーボード、レスキューボードでレクリエーション		○		○	○
100							
110	閉会式	課題・目標の達成を中心としたフィードバック					
120	着替え・片付け						
130							
140							
150							
160							
170							
180							

項目	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ
要素ごとの達成度	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十分 もうすこし</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>5 4 3 2 1</p> <p>十分 もうすこし</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>5 4 3 2 1</p> <p>十分 もうすこし</p>
活動内容ごとの振り返り	<p>ポジティブフィードバックを心がけ、成功体験が得られるようにした。</p>	<p>地域の子どもたちを対象にしライフセービングクラブ、クラブメンバーが地域住民と交流できる機会となった。また地域のスイミングスクールと繋がるきっかけとなった。</p>	<p>楽しいの前提に安全があることを強調した。</p>
改善計画と今後の展望	<p>海の楽しさのみならず、ライフセーバーやライフセービング競技などへの興味・関心も引き出せて行けたらなお良い。</p>	<p>これまでのように単発開催ではなく、ジュニアライフセービングクラブのように、定期的・恒常的に開催して、ジュニアの子が将来ライフセーバーになっていく道筋を作っていきたい。</p>	<p>海で実施することに意義があるが、気象海象に左右されるリスクは必ずあり、運営面でリスク回避（予備日の設定や返金システムなど）を整えていく必要がある。</p>

活動写真・集合写真



活動写真・集合写真



広報関連書類



広報関連書類

アンケート・感想のコピー

《アンケート結果》

保護者6名に実施(参加者7名の内、1組が姉妹)

1. 総合的な満足度

満足：5名 やや満足：1名

どちらでもない、やや不満足、不満足：0名

2. 前問のように回答した理由

- ・プールでは体験できない内容で大満足でした。
- ・普段経験出来ないことや学べる事が沢山あって良かったです。
- ・海の危険さも教わりつつ、楽しく受講しているように見えました。
- ・子どもが楽しかったと。
- ・子どもが楽しんでいたので。
- ・子どもたちが楽しそうでした。

3. 以下の点に対する満足度

①プログラム内容

満足：5名 やや満足：1名

どちらでもない、やや不満足、不満足：0名

②開催日程

満足：6名

やや満足、どちらでもない、やや不満足、不満足：0名

③時間配分

満足：6名

やや満足、どちらでもない、やや不満足、不満足：0名

④参加費

満足：6名

やや満足、どちらでもない、やや不満足、不満足：0名

4. また参加したいと思いますか。

思う：5名 やや思う：1名

どちらでもない、あまり思わない、思わない：0名

5. 意見、要望

- ・また是非開催してほしいです。
- ・毎年開催してほしいです。また参加したいです。ありがとうございました。
- ・もっと人数が集まればもっと楽しそうですね。
- ・またお願いします。

2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年 7月 9日 10:00 ~ 12:00	会場	北条海岸				
主催クラブ	館山サーフクラブ						
対象/参加人数	小学生とその保護者、教職員/37名（子ども17名、大人20名）						
指導者	篠田敦子(JLAサーフインストラクター、Jrインストラクター)、住吉玄徳、下脇亮磨、木津谷富洋、木津谷海乃、早川有里						
研修生の受入れ状況							
JLAのねらい 達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。						
	十分達成した 達成した 達成していない						
クラブのねらい 達成度	地元の小学生を対象に、海でのジュニアライフセービングを通して水辺（海）での楽しみ方、身の守り方を学ぶ。他、地域近隣小学校への波及効果と当クラブで実施しているジュニアプログラムの参加者増を狙う。						
	十分達成した 達成した 達成していない						
使用機材・教具	ライフセービングかるた、e-lifesaving(ラミネート加工)、ライフジャケット、ニッパーボード、レスキューチューブ						
実際に行ったタイムテーブル	活動内容			楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ	クラブの創意
10	挨拶・スタッフ紹介・プログラムの目的			○			
20	e-lifesavingを加工したパネルを使用しながら、ゲーム形式で海の安全について学ぶ					○	
30				○		○	○
40							
50	ライフセービングかるた TATEYAMA選手権						
60	①②③を20分でローテーションさせる			○	○		
70	① 子供も大人もニッパーボード 初めてのニッパーボード 乗る位置、漕ぎ方、止まり方、注意点						
80	② ライフジャケットを着てみよう ライフジャケットって浮くだけ？ みんなで輪になろう (Huddle ポジション)				○	○	○
90							
100	③ レスキューチューブで助けてみよう！ 何人掴まれる？ビート板の代わりにする？ 大人の人を引っ張るよ！				○	○	
110							
120	まとめ、リーフレットお渡し、アンケートお渡し						
130							
140							
150							
160							
170							
180							

項目	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ
要素ごとの達成度	5 4 3 2 1 十分 もうすこし	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 十分 もうすこし	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 十分 もうすこし
活動内容ごとの振り返り	親子(家庭教育学級)で楽しく活動できていた	親子(家庭教育学級)で楽しく活動できていた	年齢、学年によって理解度に差が生じた
改善計画と今後の展望	ライフセービングかるたの活用法	PTA活動として親子で参加する好機になった。教職員の参加もあり、今後の発展が見込まれる。	体の大きさにジュニア用のレスキューチューブがあるとよい。

活動写真・集合写真



2022年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	2022年 8 月 21 日 8:00 ~15:00	会場	富山県射水市海老江浜公園		
事業名	新湊大橋開通10周年・海王丸パーク開演30周年記念事業 第5回富山湾ふれあいビーチフェスティバル				
主催クラブ	富山湾ふれあいビーチフェスティバル実行委員会 富山ライフセービングクラブ				
対象/参加人数	小中学生40名				
指導者	石原早織（JLA教育本部 地域教育推進委員会）、スタッフ：宮田真一、舎川智也、教家直樹、若林真由美、中根大文、藤田智弥、藤田優子、藤田健人				
研修生の受入れ状況	有				
JLAのねらい 達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。				
	<input checked="" type="radio"/> 十分達成した 達成した 達成していない				
クラブのねらい 達成度	ビーチクリーンを通して未来へと海を守ることを学ぶ、自然(砂浜・波打ち際・海中)の中で人(参加者、保護者、指導員)と関わり合いながら心を解放し、お互いを認め合い、命の大切さを学ぶ。				
	<input checked="" type="radio"/> 十分達成した 達成した 達成していない				
使用機材・教具	ライフジャケット、ニッパーボード、ビーチフラッグス				
実際に行ったタイムテーブル	活動内容	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ	クラブの創意
10	【ビーチクリーン】 ○SDGs(海洋汚染問題)を学ぶ、未来へと海を守る活動をする		○		
20	【ビーチフラッグス大会】 ○ライフセーバーが行う競技を体験する ○競技ルールを理解し、楽しさを知ってもらう。	○	○		
30					
40	【ライフジャケット着用体験】 ○ライフジャケットの必要性、正しい装着方法を理解する		○	○	
50					
60					
70	【ニッパーボード】 ○ボードに乗ることの楽しさを体験する		○	○	
80					
90					
100					
110					
120					
130					
140					
150					
160					

170							
180							

項目	楽しさ	人との関わりあい	いのちの大切さ
要素ごとの達成度	⑤ 4 3 2 1 十分 とうすこし	⑤ 4 3 2 1 十分 とうすこし	⑤ 4 3 2 1 十分 とうすこし
活動内容ごとの振り返り	<p>【ビーチクリーン】 プラスチックゴミを道具を使って回収した。</p>		
	<p>【ビーチフラッグス大会】 ビーチフラッグス経験者が少ないこともあり、石原指導員からコース作成、競技ルール、参加者への説明方法など指導をいただきとても参考になった。この競技は救助の時の一瞬の判断が鍛えられることを参加者に説明した。</p>		
	<p>【ニッパーボード】 石原指導員のもと、ボードで波に乗ることの楽しさを体験してもらった。海中でボードを扱うことの難しさも体験した。</p>		
	<p>【ライフジャケット着用体験】 水辺や海には色々な危険があるので、ライフジャケットが必要であることを伝えた。正しい着用方法や身体にぴったり合うライフジャケットの着用が望ましいこと、自分の存在をアピールする笛が入っていること、慌てないことが大切で緊急時の対処方法なども伝えた。 *「海の日本 富山県」の取材あり</p>		
改善計画と今後の展望	<p>【ビーチクリーン】 今回は砂浜のゴミに注射器や触れてはいけないクラゲなどは無かったがゴミの扱い方も最初に説明出来たらよかった。海老江海浜公園にはシーグラスなどはないが、シーグラス収集の楽しさも伝えたい。</p>		
	<p>【ビーチフラッグス大会】 小学生は学年により力の差が違うので学年でグループ分けをして行ったほうがよかった。今後はジュニア競技会種目、ランスイムランやリレーなども体験出来るようにしたい。富山県ライフセービングクラブは発足間もないこともあり、競技経験者が少ない。コース作り、ルール把握、安全に運営するノウハウが必要と感じた。他クラブの主催大会などの手伝いをするなどして経験を積みたい。</p>		
	<p>【ライフジャケット着用体験】 今回は陸上だけで着衣をしてもらったが、どれだけの浮力があるかなど、実際に海中での浮く感覚を体験してもらおうとよい。</p>		
	<p>【ニッパーボード】 道具を扱うことから、ケガもしやすいのでサポート員の増員が必須。スタッフも使用経験が少なくもっと使用経験を重ねることが必要。</p>		

活動写真・集合写真



活動写真・集合写真



広報関連書類

砂浜で運動 心地よく
あいちビーチフェス

夏休みが近づいてきた。子供たちは、夏休みには、海水浴やキャンプ、お祭りなど、様々な行事に参加する。その中でも、砂浜での運動は、心地よく、健康的な活動である。特に、ビーチバレーやビーチサッカーなどは、チームワークを鍛え、体力を鍛えるのに最適なスポーツである。また、砂浜での運動は、自然の恵みを感じながら、リラックスした気持ちで楽しむことができる。今年、あいちビーチフェスでは、ビーチバレーやビーチサッカーの大会を開催し、多くの人が参加する予定だ。ぜひ、家族や友達と一緒に、砂浜で運動を楽しんでほしい。

新装大福 10円
海王丸 パーク 30円

広報関連書類